

第86回 ここからカフェ九品仏

酷暑を乗り切るフレイル予防
健康維持と健康増進
握力測定をしてみましょう

日時：2025年9月20日（土）

13:30～15:30

講師：世田谷区国保・年金課特定健診係

委託先 株式会社メディヴァ 保健師・管理栄養士

会場：九品仏複合施設2階

世田谷区奥沢7-35-4

参加費：300円 ※要予約

申込・問合：090-3961-8514

第113回 お隣さまお茶会

朗読

恋慕の裏側

朗読の会「けやき」斎藤雅美さん

日時：2025年9月8日（月）

13:30～15:30

会場：spaceえんがわinn

玉川田園調布2-12-6

参加費：500円 ※要予約

申込・問合 03-3721-8699

玉川まちづくりハウス

第57回 玉田シニアサロン

コミュニティ・ヒストリーを考える
(街角保健室プロジェクトから)

伊藤雅春さん 小西玲子さん

日時：2025年9月7日（日）

14:00～16:00

会場：玉川田園調布会館

玉川田園調布1-9-12

参加費：500円

ハウスの会員数

特別正会員	5名
正会員	28名
ニュース会員	58名

9月号にかかわったひと

伊藤雅春	染野和夫
高橋阿貴	小西玲子
柴田希美絵	池田麻未
昆野敬子	有賀由利加

8

ハウススケジュール&フレイバック

予定・詳細はHP <https://tamamati.com/> にてご確認ください

20日（水）
23日（土）
28日（木）

街角保健室 / スペースえんがわ inn
ここからカフェ九品仏 / 九品仏複合施設2階
住宅まちづくり総合相談 / 玉川総合支所

no.358

玉川まちづくりハウスは、住民主体のまちづくりをお手伝いする特定非営利活動法人（NPO法人）です。

ここからカフェ九品仏「東京大空襲」を観る会



8月は23日（土）13時半～、前号8月号でもお伝えいたしましたが、「ここからカフェ九品仏」（場所：九品仏まちづくりセンター2階）で「東京大空襲2025年製作／日本 監督松本和己」を観る会が開催されました。

…1945年3月10日、東京の下町を焼夷弾の嵐が襲った。戦争の終結を急ぐアメリカ軍は、2時間半で10万人もの命が失われた東京大空襲をはじめ、山の手空襲、八王子空襲、さらに日本各地で爆撃を実行していく。すべてが焼き尽くされるなか、浅草の言問橋を渡り家に逃げ込んだ上野さんは、火災旋風に人が巻きあげられる様子を目撃する。笛川さんは浅草から上野方面へ逃げようとするが進むことができない。同じ頃、深川では濱田さんが炎をくぐり抜けて清澄庭園に逃げ込み、関野さんは中川の土手沿いの防空壕で耐えていた。…

空襲を体験した31名の証言と膨大な資料をもとに制作されたドキュメンタリー。

当日は27名が参加し、本来なら2時間余りのこの作品を遠藤さん（九品仏在住 ※上野毛ダンディーズの一員として活動中）が1時間17分に短縮してくださったものを観ました。

焼夷弾の酷さ、火事になると炎だけでなく、熱風が襲うこと、酸素が欠乏したことで、狭い防空壕や下水管の中で折り重なるように大勢の方が亡くなつたこと、東京大空襲の後も日本各地にB29の爆撃は続き、終戦6時間前まで続いたこと。戦争孤児や、引き取られた親戚宅等でのつらい体験、映画の後のお茶の時間に聞いた参加者のお一人からの、帰還された肉親の家庭内暴力やモルヒネ中毒の話も、どれも二度と戦争をしないためにも心に留めてかなくてはと思うお話をでした。映画に登場する、実際に空襲を体験された方のお話は、静かな語り口でも、現実のものとして心に迫り、戦争をこれまでとは違う視点からみることができて、貴重な体験でした。

証言者として映画に登場されたお一人、今野春雄さんは中町在住、この日も解説してくださいました。「DVDいつでもお貸しますよ。」とおっしゃってくださっていますので、機会を見つけて上映できたらと考えています。一年に一度、でしかないかもしれません、戦争を振り返ることは大切なのではと思います。

小西玲子

※ 上野毛を中心に集まった男性のグループで、退職後、地域のために何かをしたい！と集まったメンバーで構成されています。月に1度、定例会を開催し近況報告をしたり、外国から来られた方々に対し、英語を使用しての困りごと解決についてや、地域の子どもたちにできることについて話し合っています。



九品仏地区の多様な活動団体による街角保健室2025

2023年度、玉川まちづくりハウスは地域の団体とネットワークを組み、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業からの助成を受け「九品仏地区の多様な活動団体による街角保健室ネットワークの構築」プロジェクトを行いました。

地域活動はそれが忙しく、横につながることが大切と思っていてもなかなかその機会をつくることができません。その意味でも、知らなかった活動や人に会うことが出来たこの取り組みは、参加してくださったみなさん、「よかった！」と思ってくださいました。

2024年度はお休みてしまいしたが、2025年度世田谷区の「地域の絆連携活性化補助金」を得て再び取り組もうと考えています。

再び！ 街角保健室をはじめます このまちに あちこち 街角保健室と一緒に作りませんか？

10月12日（日）街角祭り開催

会場：デイ・ホーム玉川田園調布

10:00～16:00

ボッチャ・モルック・ハンドアーチェリーなどの子どもも高齢者も障がいのある方も誰でも参加できるスポーツ体験。

福祉の様々な相談ごと地域の活動紹介など

毎月、毎週、まちのどこかで人が集い、暮らしの心配事を聞いてもらえる場所のあるまちを育てていきましょう！

「街角保健室」プロジェクト実行委員会

- ・九品仏あんしんすこやかセンター
- ・ふくろうクリニック自由が丘（地域医療）
- ・（一社）輝水会（レジリエンス・スポーツ）
- ・オフィス侑（ファイナンシャルプランナー）
- ・玉川まちづくりハウス（コミュニティデザイン）
- ・とまりぎ菜園（世田谷生涯現役ネットワーク

地域デビューの会）他

各団体が行っている活動を横につなげることで、地域住民に対する幅広い入り口と多彩なサービス（サロン、マルシェ、だれでも食堂、スポーツ療法、終活の相談、制度の紹介、医療的対応等々）を提供することを目標にしています。

暮らしのつぶやき 9月



東京を楽しむお盆

今年のお盆はどこにも旅行にいかなかつたのですが、その代わりに新宿歌舞伎町にある旅館に泊まりに行きました。

宿泊客はほぼ海外の方々ですが、最上階には露天風呂があり、佇まいは和風で、お部屋も畳で、きれいな雰囲気で素敵でした。

夕飯を近くの蕎麦屋で食べたのですが、いかにも新宿らしい二人連れ（金髪青年とか年齢差カップルとか華やか！）の方々が多くて、テーマパークのようでした。



夏の終わり

気温としてはまだまだ暑くてそんな感覚になれないですが、お盆を過ぎると日が暮れるのが少し早くなるような気がします。

夜に鳴く虫の声もすこし今までとは違うものになってきました。こんなに気温や天候の変化が激しいと、虫や鳥などの小さな生き物の生態系も変わってしまうのではと心配ですが、今はまだツクツクホウシの声に秋を感じていられるようです。

毎月「地域 GAYAGAYA」は奥沢地誌保存会の染野和夫さんにお願いし、この辺りの歴史の歩みを掲載させていただいている。今号もすでに原稿はいただいている。「学童疎開」のお話です。そこで取り上げられている子どもたちの絵ハガキがあまりに素晴らしく、いつも通りのレイアウトでは小さくなりすぎてみることが出来ない！ 次号紙面を少し拡大しその絵ハガキも少しあるようにして、みなさまにお届けしたいと考えました。楽しみにしてくださった方には申し訳ないのですが、次号をぜひお待ちください。

タマテン marche 通信 拡大版

8月、マルシェは暑さもあり、お休みいたしました。

● 次回開催 9月18日（日）15時～17時 7月と同じく、夕市です。是非お出かけください！

カリフォルニアから約4年ぶりに来日されていたアーティストのSue Markさんの企画で、8月2日にワークショップを開催しました。SueさんとBruceさんお二人のユニットmarksearchの活動については、2021年に、今やマルシェの中心人物、有賀由利加さんからのレポートでハウスニュースで紹介しました。今号も有賀さんからの報告です。

～タマテン marcheとのつながり～

Sueさんと玉川田園調布との出逢いは、まだ、パン屋「ビゴ」跡地で開催していた当時のタマテンマルシェ。通り沿いにあったピンクやブルーの一軒家の空き家を活用しSueさん達がアートプロジェクトを始めたことがきっかけです。

2019年、Sueさん達は東京でプロジェクトをスタートした後、当時は東北に移動しプロジェクトの展開を予定していたものの、新型コロナが流行し状況が急変。東京での活動を継続せざるを得ず、世田谷区でプロジェクトを継続することになりました。

コミュニティのアーカイブをテーマに、様々な活動を世界中で展開されているお二人。前回の世田谷でのプロジェクトでは「暮らし」「日常」に目を向け、生活に潜む心の声や音を収集して、作品として「声の記念碑」を作りました。玉川田園調布を拠点として九品仏商店街や浄真寺などで「声の記念碑」と共に練り歩いたり、とてもユニークなアイデアで地域にコミュニケーションの機会や場を作ってくださいました。

～カリフォルニアでの活動と東北でのプロジェクト再開に向けて～

2021年に帰国してからも、まちづくりハウスの活動や玉川田園調布のコミュニティに関心を持ってくれていた、Sueさん。いつか東北でも活動したいという想いがあり、プロジェクト再開に向けてこれまでのプロジェクトの意義やこれからコミュニティに必要とされることを考えてきました。オンラインを中心に1年以上の話し合いを重ね、言語やコミュニティの違いなども乗り越え、理解を深めながら他の地域との連携の可能性も模索しています。ようやく今、東北でのネットワークも少しずつ構築し始めています。現在は、縁が繋がった蔵王でアーティストインレジデンスの活動を主軸に事業を展開している「一般社団法人とおがったプロジェクト」のメンバーと、今後に向けて話し合いを進めています。今回のワークショップにも、蔵王のレジデンスの方々に参加いただき、交流することができました。2026年の秋ごろに、実施に東北に滞在し、プロジェクトを実施できるよう準備を進めています。

～タマテン Marche とコラボし、プロジェクトを行っていきます～

8/2に実施したワークショップは「Climate Cafe」という手法で、これまで欧州を中心に広まってきました。市民が気軽に気候変動、環境問題について考えるきっかけを提供する場としても機能しますが、一番大切なことは自分の言葉で自分の想いを話せる、安心して吐露できる場があること。これから、タマテンマルシェや様々な場を通じて、Sueさんに協力していただきながら、多様な意見を受け止める場、気軽な意見交換の場や交流機会を皆さんと一緒に作っていきたいと感じています。



ワークショップ風景
蔵王のレジデンスの方々も参加



黒の浴衣

家族で行った夏祭りのイベントで貸し出しがされていて、この夏初めて浴衣を着ました。真っ黒の地で、裾の方に水色とオレンジの朝顔、同じ色合いの蜻蛉が飛んでいるものを選び、帯はマルチカラーの織物っぽいもので合わせてもらいました。浴衣だと、普段は着ないような色の合わせ方をすることができとても楽しかったです。夏のよい思い出になりました。



祭りの作法

浴衣の着付けをしてくださった女性が浅草の本物のお祭りの法被を着こなしていく、地下足袋もきりっとしててかっこよかったです。法被は袖口をまくると裏地が表と違う模様になっていて粋でした。

実際にお神輿を担ぐときは、袖をまくったりしてはいけないそうで、それはお神輿で神様を運ぶ際は正装でいなくてはいけないから、というルールだそうです。お祭りにも様々なルールがあることを学びました。（貴）